

じゃがいも

馬鈴しょ???



今度はぼくが
馬鈴しょを
紹介するよ!

- 1 きたみらい地域の気候が
じゃがいもをおいしくする
- 2 「でんぶん価」が高いとホクホクになる
- 3 冬が旬のじゃがいもがある

きたみらい地域は
日照時間が長くて、昼夜
の温度差が大きい
んだよね?

温度差

そつそつ!
その気候がでんぶんを
多く含んだじゃがいも
を作ったんだよ。

それが「でんぶん価」
だね。

でんぶん



じゃがいもの旬は
秋じゃないの?



「スノーマーチ」という12月
～1月が旬のじゃがいもが
あるんだ。中は雪のよう
に真っ白だよ。

他の仲間も紹介するよ

きたみらいのじゃがいも



男しゃく

出荷時期 /
8月上旬～翌年3月下旬

日照時間と昼夜の温度差が
ホクホクのヒミツです!

男しゃくは、1928年に北海道の優良品種に決定してから、今まで長い間親しまれている品種です。いもの中が白色、でんぶん価が高いことから、サラダや、コロッケを中心に何でも合う、万能選手です。



とうや

出荷時期 /
8月中旬～翌年1月下旬

「とうや」は北海道奨励品種です!

とうやは芽が浅く、丸いのが特徴です。そのため皮がむきやすく調理性に優れ煮くずれしにくいことから、肉じゃがなどの煮込み料理や、なめらかな舌触りなどから、ポテトサラダに最適な品種です。



肉質が黄色く気品のある味わいなので、ブランド名「黄爵」として、全国へ出荷されています。

トヨシロ・きたひめ

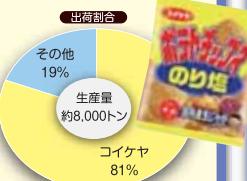
出荷時期 /
9月～10月中旬

「トヨシロ」「きたひめ」は、ポテトチップス専用に作られた品種です。



サラダ油との相性が良く、油で揚げても黒くなりづらい(焦げづらい)特性を持っています。

いもの形は卵型(小判型)・中は白色です。



※全量、チップメーカーへ出荷しています。

サラダ用ポテトさやか

出荷時期 /
9月下旬～翌年8月下旬



「さやか」の色は「男しゃく」より白く、肉色は「男しゃく」に似ています。表皮はなめらかで、芽は浅く煮くずれしにくいので加工する際の捨てる部分が少なく、調理特性に優れています。スライスサラダ、煮物にも適します。



ECOみらいじゃがいも

玉ねぎと同じく、じゃがいもにも“こだわり”を持ち生産者約530戸のうち、50戸が作っています。ECOみらいたまねぎからは1年遅れのデビューでした。「顔が見える商品づくり」「手が届く商品づくり」をコンセプトに、ホクホクのじゃがいもをみなさんの所へ届けられるように努力しています。





きたみらいのじゃがいもはこうして作られ、みんなの食卓に届くんだよ

じゃがいもが
みんなの所に届くまでの
様子を見てみよう!



じゃがいもは「種いも」と呼ばれる芽が出たいもを植えて作ります。20~30日程度日光に当て、芽を育てます。



写真は種いもを半分に切っているところ。



芽が十分に乾燥し、気温が15度になると植付けを開始します。ボテトランターという機械を使います。



芽が出る前に中耕をします。中耕とは、固くなったり畳の土を細かくする作業と同時に除草も行うことです。その後、培土機という機械で、25cmくらいの高さで土を寄せます。これはいもの周りの土の温度・水分を一定に保ち、いもの日焼けを防ぐためです。写真は培土の作業の様子です。



リーフチョッパーで、茎と葉を刈り取ります。



選果場で、さらに形の変形しているものを除去し、大きさごとにダンボールに詰めて出荷します。



土地が育てた元気な



皮がムケないことを確認し、天候の良い日に大型コンテナに入れ、農協の貯蔵庫へ運び、選果時期まで保管されます。収かくはボテトハーベスターという機械を使います。
(写真はボテトハーベスターの上の選別作業の様子です。)



萌芽期 (5月下旬頃)

植付けられた種いもから芽が伸び、新しい葉が成長をはじめます。



着蕾期 (6月中旬頃)

花のつぼみが付き始めます。

じゃがいもの成長の様子

開花期 (6月下旬頃)

じゃがいもの花が一面に咲きます。花の色は白色・薄紫色・赤色など、品種によって様々な色の花が咲きます。



茎葉黄変期 (7月中旬頃)

花も咲き終わり、葉・茎が黄色に変色し始めます。